

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンター たいら

作成者: 片寄安里紗

作成日: R7 年 2 月 18 日

運営推進会議における評価実施日: R7 年 4 月 15 日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの斜線部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会議 における 外部評価	記述
I. 理念・安心と安全に基づく運営						
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	B	月1回の業務ミーティングにて唱和し、実践につなげている。		
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	D	コロナ前のように地域清掃や子供みこしでの交流がなくなってしまった。できるところから少人数でもまた実現したい。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	C	スタッフが入って話をしているわけではないため、運営推進会議を活かした取り組みに実感が無い。管理者より会議を使って周知していきたい。		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	D	相談員の派遣などを以前は利用していたが感染症の観点から現在は休止させていただいている。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	B	やむを得ない場合を除き、きちんと実践できている。月一回の身体拘束委員会にて意見交換をしてスタッフ全体の知識も向上している。	B	評価通り
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	B	研修にて高齢者・障がい者の虐待について学ぶ機会を設けており、こまめな身体観察をしながらお互いに確認・報告をしい防止に努めている。	B	評価通り
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	B	後見制度を活用している方はいないが学ぶ機会を設けており、詳細まではいかないうちで理解できている。		
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	B	長時間になることを事前にお知らせし、隔々までお伝えしている。疑問点等は都度聞いているがいつでも対応することも話させていただいている。		
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	C	感染症の観点から外出や面会の制限など、家族様の要望を反映させることが出来ていない。	C	運営推進会議に家族が参加し運営について同意を頂いている。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	C	業務ミーティングを利用し、意見を吸い上げてはいるが細かなところまでは出来ていない。		
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	B	シフトの調整や心身のケアを心掛けるようにし定年まで働ける環境を提供できるように努めている。	B	管理者がスタッフに声をかける等のケアをしている。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	B	ニチイとしての研修は行うことが出来ているが、外部研修はあまり参加することが出来ていない。	B	Zoom研修などを活用し参加できると良い
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	C	管理者は機会があるが、スタッフの同業他社たちの交流をするための有意義な機会は作られていない。		
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	B	本人様の気持ちや行動に理解を示し、常に気持ちを寄せ合い信頼関係を築いている。		
15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	C	家族様からの要望により制限付きで面会や外出はあるが、それくらいの支援しか出来ていない。		

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチイケアセンター たいら

作成者: 片寄安里紗

作成日: R7 年 2 月 18 日

運営推進会議における評価実施日: R7 年 4 月 15 日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの斜線部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進会 議 における 外部評価	記述
II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	B	なかなか本人様からは希望や意向が出てくることは少ないが、私たちのほうから把握できるように常にコミュニケーションをとっている。		
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	A	一人一人に担当スタッフを作り、本人様・家族様の意見を反映しながら現状に合わせた介護計画になるように本人様の視点で会議を進めて作成している。	B	詳細はわかりにくい介護計画をきちんと説明していたという。
18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	B	家族様が見てもわかるように記録を残すことを常に意識してもらっているが個人差がある。個別記録を参考にし、モニタリング・介護記録作成に活かしている。	B	評価通りに出来ているかと思う。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	C	本人のニーズに合わせた取り組みをしているつもりだが、既存のサービスにとらわれてしまうこともある。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	C	GHでの生活でなかなか地域資源を生かしていないのが現実である。コロナ前のように子供みこしや地域清掃に参加できるようにしていきたい。		
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	A	契約時に定期訪問診療を使うか、家族様になじみの病院に通うかどうかを確認し、納得した医療を受けられるように支援をしている。		
22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	A	スムーズな入退院ができるように密に情報共有や相談をしたうえで、退院後も利用者が安心して生活できるように努めている。	A	評価通り
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A	最後をどうしたいかなどかなり早い段階から家族様・医療機関・施設での共通認識を持つようにして支援を行っている。	A	評価通り
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	B	定期的に研修に組み込んで実践力を身に付けている。		
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	B	業務継続計画の作成 地域との協力体制を築くことが出来ている。 水害予想をした垂直避難の訓練や火災を想定した避難訓練も行っている。	B	水害被害を受けやすい立地で、あらかじめ危機感を持って訓練が実施されている。

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンター たいら

作成者: 片寄安里紗

作成日: R7 年 2 月 18 日

運営推進会議における評価実施日: R7 年 4 月 15 日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの斜線部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進 会議 における 外部評価	記述
IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)						
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができています	C	意向に沿った暮らしが出来ていると思いますが、入浴・散歩などこちらの都合にしてしまっていることもあるため課題である。		
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができています	C	家族様から確認した生活歴や習慣、嗜好品をもとにケアや支援をしているがホームでの時間の流れに合わせてもらっているところもある。		
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができています	B	入所している方全員が毎週1回の訪問看護を受け、健康チェックを行っている。本人様の状況を常に把握しながら転倒予防に努め毎日の掃除と整理整頓によって環境を整備している。	B	今後も継続して転倒などの安全面について状況改善の検討が必要だと思います。
43	生活の継続性	本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができています	C	食事の時間・入浴の時間・レクリエーションの時間が決まっており、自分のペースや習慣になっている暮らしが出来ているとは言い難い。		
44		本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができています	B	ソファや嫁入り道具であったらう桐タンスの持ち込みなど、本人様のなじみのものや読書のための本など家族様の協力のもと身近にもつ事が出来ている。	B	評価通り
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができています	D	家族様の協力によってかなえられている時もあるが、本人様の意向や希望によって叶えられていない。		
46	本人が持て力活用	本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができています	B	日々の生活や本人様とコミュニケーションをとりながら正確に把握し自立支援につなげている。役割分担をし、それが楽しみになるように工夫をしている。		
47		本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができています	B	スタッフとの信頼関係が築けている為、いきいきと会話が出来ていることのほうが多い。スタッフとも常に寄り添った関係性が出来ている。	A	四季折々のイベントなど工夫して生活の質の向上がされている。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができています	D	交流の場を提供することがほぼ出来ていない。		
49	総合	本人は、このGHにいてことで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができています	B	地域の人のつながりはあまり出来ていないが、スタッフと家族のような安心感を持ち一緒に悩みや不安・楽しみや喜びを共有しながらよりよい日々を送ることが出来ている。	B	コロナやインフルエンザ等の感染予防対策について大変だったと思います。ご利用者さまの安心安全な生活の支援を継続して頂きたいです。

総評

日々、感染予防対策をしながらのケアで職員の方々は本当に大変だったと思います。引き続きご利用者の安心安全な生活の支援を継続して頂きたいと思います。

現状におけるご指摘事項・事業所の課題

転倒などのヒヤリハットや事故について状況改善について検討されていることがわかりますので今後も日常のアセスメントや状況改善に努めて頂きたいです。

参加者サイン欄

自己評価・運営推進会議における評価活用ツール

帳票C

事業所名: ニチケアセンター たいら

作成者: 片寄安里紗

作成日: R7 年 2 月 18 日

運営推進会議における評価実施日: R7 年 4 月 15 日

(事業所としての自己評価日)

凡例 A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない

※グレーの斜線部分は外部評価の評価対象外

No.	タイトル	評価項目	事業所 自己評価	記述	運営推進 会議 における 外部評価	記述
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	B	人生の先輩であるということをそれぞれの職員がきちんと理解をし、人格尊重・誇りやプライバシーを守ることが出来ている。	B	評価通り
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	B	入浴時間や散歩支援など、本人様の希望に添えていないこともあるができるだけ添うようにしている。		
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	C	感染症の観点から食材に触れる準備は現在出来ていないが食器拭きやテーブル拭きなどの片付けをして頂いている。	B	栄養対策もいろいろと 範囲での支援をしているように 思います。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A	会社の栄養士が考えた献立をもとに栄養バランスや水分量を確保している。食事量や好みも本人様の状態やこれまでの生活に合わせた支援をしている。		
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A	起床時、毎食後の一日4回口腔ケアを行い口腔内の清潔保持を徹底している。	A	丁寧にケアができている かと思う。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	B	一人一人の排泄パターンや習慣を活かした支援はしているがタイミングが他者様と被るときもあり、失敗することもある。便秘の予防には医療機関と連携を取りながら行っている。	B	評価通り
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	D	入浴剤を使ったり、季節に合わせてゆず湯やしょうぶ湯にして楽しめる工夫はしているが入浴は午前中で、3日に1回と決まっている。		
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A	認知症状により不安になって眠れないという方も多いため医療機関と相談したり、傾聴して不安や悩みを取り除きながら安眠や安らぎにつながるよう支援している。		
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A	新しい薬の追加や減薬があった時もしっかりと申し送りし、管理者だけでなく職員も共通で薬の目的等を理解することが出来ている。	A	評価通り
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	C	すべての利用者のニーズを網羅することは出来ていないが、家事手伝いやレクリエーションを使って楽しみごとや気分転換の支援をしている。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	D	大々的には行っていないが、家族様からの希望があれば短時間で外出も条件付きで許可している。ニデイとしてはあまり出来ないため課題となっている。		
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	D	金銭トラブルにならない程度の金額や、家族様と相談し無くてもよい金額で所持してもらおうような方法をとっている。中々使えるような支援までは出来ていない現実がある。		
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	B	本人様や家族様の希望に合わせて随時支援している。		
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A	共用空間は整理整頓をし刺激にならないように配慮している。壁画やお花を飾り季節感が出るような工夫を行っている。	A	壁紙や行事などで 季節感を感じることができ るような工夫をしている。